

「住みやすい都市・住みやすい地域」の要因抽出に関する基礎的研究

——カナダ・バンクーバー市と佐世保市を事例として——

山田千香子・西村千尋

はじめに

カナダの西海岸に位置するバンクーバー市⁽¹⁾は、2001年の調査⁽²⁾で、世界のなかで「最も住みやすい都市ナンバーワン」に輝いた都市である。周囲を美しい山に囲まれ、都市部であるにもかかわらず自然に恵まれた都市、バンクーバー。カナダでは三番目に大きい都市である。地理的には半島の中にあり、半島の先はスタンレー・パークという大きな森林公園がある地形は、中世の城塞都市にたとえられてきた。しかしながら、バンクーバー市がはじめから住みやすいといわれる都市であったわけではない。他の北米都市と同様に都市問題を抱え、地域の再生やまちづくりを大きな課題としてきた。

本論では「まちづくり・地域づくり」の視点から、1997年に計画立案され、そしてこれまで実施されてきたバンクーバー市の都市再開発への独自の取り組みに注目し、事例として紹介する⁽³⁾。さらに視点を身近な「佐世保市の暮らし」へ移し、市民を対象に実施したアンケートの結果をもとに、佐世保市に居住している人々が街や地域に求める、暮らしやすさ、住みやすさとは何かについて考察する。

第1章 バンクーバー市の挑戦

一人と自然の共存、そして快適な生活を—

第1節 バンクーバー市の抱えていた問題

1900年代後半、北アメリカの大都市とその周辺では、ダウントウンのオフィス街の発展が頭打ちとなり、その一方で、都市部から郊外への人口流失が起こり、場合によっては経済活動までもがその拠点を移動する現象が見られるようになった。都市部の空間の窮屈さ、使い勝手の悪い建物、交通渋滞、悪くなるばかりの自然環境、そんな一連の問題を解決しようにも解決しきれない市の財政難などと、悲観的な情況が重なっていった。

人々を都市部から遠ざけていった理由はそれだけではない。広い土地にゆったりとした機能的な住居を持ち、住んだ空気の中で自然と触れ合い、地区の人々との活動を楽しむ。こんな魅力が郊外にはあるからだ。人々が郊外に住居を移し、そこから仕事の間であるダウントウンに車で通うようになったり、仕事も郊外で営むようになってきたのは当然のことといえるだろう。どうすれば、人々を都市中心部に取り戻せるか。このままでは街の生死に関わると、大都市では必死で経済奮起・人口奪還策を模索するようになった。バンクーバー市もその例外ではなかった。

バンクーバー市は1900年代半ばより、経済発展

に加え海外から移住者も多く受け入れ、人口の増加がみられた。しかし、人口増加への対応策は十分ではなく、限られた地区への高層ビルの建築と人口の集中は、そこで暮らす人々へ様々な不便さと不合理性を与えるようになった。そしてそこから逃れ、郊外に住居を移した人々がバンクーバー中心部へ通勤のため使用する車の増加は大気汚染という問題をもたらすことになった。このような都市問題にいかに対応していくかが、1970年代以降、バンクーバーの課題となった。

第2節 生活優先の都市開発

バンクーバー市が目指した新しい都市開発の特色は、「生活優先」を第一に掲げたことであった。具体的には「ダウンタウンの近くに人々の家族形態に応じた快適な住居を建てること」「公共交通や施設をいつでも利用でき、自然に囲まれ健康で活気ある街づくりをすること」、そして「許容交通量を変えずに、市内に住む人の数を増やし、通勤、その他で市に入ってくる人口を減らすこと」を目指した。都市開発の中には裕福な地区と貧しい地区をはっきり区別するものがあるが、バンクーバー市の都市開発の考え方は、裕福な人もそうでない人もすべてを包括するものである。開発を支える基本理念が市民参加の基に以下のようにまとめ上げられた。「現在においても将来においても、そこに住む人々に快適な住空間をもたらす、同時に自然を破壊せず守り続けることが可能なアーバン・コミュニティをつくること」(Sustainable development)。人間と自然が共存する快適な生活の場をつくるという基本理念に基づき、具体的にはバンクーバー市南東部のフォルス・クリーク地区のウォーター・フロント開発が実現されていっ

た。

フォルス・クリーク地区⁽⁴⁾はバンクーバー市南東部に位置する人口の入り江で、かつては(1800年代後半以降から)工業地区として発展し、鋳物、造船、金属加工などの工場や塩の流通センターなどが点在していた。しかしながら、そのような工業・産業の衰退とともに荒廃した地域となっていた。1997年、バンクーバー市はこの地区を荒廃するままにしておくより、これからさらに増え続けると予想されるバンクーバー市の人口とダウンタウンで働く人々のための住居とを考慮し、この一帯を住宅地として再開発することを計画した。その特色について以下項目別に紹介していく。

(1) 社会・経済的視点

① 人口の増加に伴う生活形態の多様化にあわせた住居

住む人や家族の世代・形態・収入の幅に見合った形や大きさの住居を建設し、うまく混ぜ合わせることが計画された。そのため、家族のなかでの子どもの有無や、障害者向け、高額所得者向け、中あるいは低額所得者向けなどに応じ、建物の外形・大きさ・部屋の間取り・大きさ、床・窓・内部仕様の違いが考案された。また、子どものいる家庭や犬を飼っている家庭、高い場所が苦手な人のための住宅として2～3階だての低層の建物も数多く建てられることになった。さらに、こうした住宅区域はダウンタウンへの通勤に便利で、バスを利用しやすい位置に設定され、車の使用回数を抑えることで大気汚染予防を図ると同時に乗用車維持費の節約とが計画された。また、環境保護・資源再利用の点から、熱やごみ処理の効率性を備えた建物であることが問われた。

② 生活者に合わせた商業区域の位置

「住みやすい都市・住みやすい地域」の要因抽出に関する基礎的研究

商業区域を限定し、生活者の優先順位に合わせた小売施設からバスの停車場に近い位置に置かれ、同時に住宅区域から車を使わず徒歩でも行ける位置であることとされた。

③ 住人にあわせた公共施設の設置

学校、病院、保健施設等、住人がより快適な生活をおくるための公共施設の設置は大切な課題であった。住宅建設とともに、既存の施設の検討がくわえられ、さらに必要な施設について、社会・教育・文化・保健の視点から検討された。その建設にあたっては、住人の年齢の幅、特徴を広くふまえたうえで、安全で清潔、使いやすく、くつろげるデザインが専門家によって話し合われた。

(2) 公共空間の確保と緑化の重視

この開発計画の中で、公園や遊技場、遊歩道、入り江の水際に沿った区域等の公共空間を確保しどのようなものにするかは、地区の活性化を促進する上で欠かせないものであるという共通認識が前提となった。人々がそのような場所に集うことにより、コミュニティの一員であることを肌で感じることができる、と同時にこの計画が目指す動物・魚・草花・木々などさまざまな生態系を保護する上でも重要なポイントであった。市では住人1000人あたり最低10平方キロメートルの公園が必要との見解をだした。住宅の近くにも小さい公園があること、大きな公園や遊技場へは地区内どこに住んでいても草花や街路樹などに縁取られた道を通って行けること、どの年代の住人であっても、障害者であっても利用しやすいこと、とくに子どもたちに十分な活動の場を与える施設であることが理念として盛り込まれた。

(3) 交通・運輸対策

交通網・運輸対策では、歩道、自転車道、公共

交通に重点を置いた開発が求められた。とくに歩道と自転車道との整備は、住宅から公園や公共施設、商業区域やバス停に行くのに便利で歩きやすい道の開発が課題とされた。これは車の使用を抑える対策が大気汚染予防に寄与することも考えての計画であった。さらに、地区内でのバス路線の充実⁶⁾、近隣地区やダウンタウンへのバス路線の拡充や増発が求められた。また、地区内での移動に便利なミニバスの運行や湖面を利用しての水上バスも計画に含まれた。公共の駐車場の場所、広さについても時間帯による人や車の動き等、各交通機関からの距離や利便などを考慮し調査が実施され立案に至った。

(4) 環境保護重視

地区におけるエネルギーの利用・再利用については、利用可能なエネルギーの検討とそれを最大限利用するための技術、太陽エネルギーの効率的利用、エネルギー効率のよい建物、経費、周囲の施設とのデザインの調和などが、電力会社や建築会社を交えて検討された。水の管理については、消費量の検討、環境への影響、地区緑化のための水の確保、水の再利用設備と経費などへの対策が検討された。ごみについても、家庭ごみから産業廃棄物にいたるまで、出すごみを最小限にし、出るごみを最大限に利用する総合的なごみ処理対策が必要と考えられた。

空気中の二酸化炭素やフロン増加による空気汚染問題も深刻な問題のひとつであった。それら地球温暖化の原因にもなっている温室効果現象を抑える対策として、住人には自家用車より公共交通機関の利用を促し、地区の緑化と維持の方法が検討された。

(5) 地区経済発展の必要性

住人が暮らしやすく、活気のあるまちづくりをするためには、将来的にも継続可能な地区の経済発展が必須と考えられた。企業の利潤を追求するあまり、社会共通の利益や、資源、環境を無視するような従来の経済発展ではなく、住人の福祉を第一に、そして地区に活力を与える経済発展が望まれた。そのため、リサイクリングなどのグリーンビジネスの促進、環境保護のための商品生産やサービス業の擁護などが地区経済の発展策として同意された。同時に、地区内での雇用を生み出すこと、若い人々への職業訓練プログラムを提供することは、住人への生活安定策とされた。住む人々が健康で豊かなまちづくり、そのための経済発展策が重要課題であった。

第3節 アーバン・コミュニティモデル：**フォルス・クリーク南東部地区開発**

現在バンクーバー市のフォルス・クリーク南東部地区は、カナダにおけるアーバン・コミュニティのモデルとして、カナダの国内ばかりでなく国外にも広く知られている。実現されたバンクーバー市の都市開発の特色としては、1. 伝統的なヨーロッパの街づくりの考え方を基本としながらも、高層住宅の多いこと。2. 市内に流れ込む交通量を規制しながらも、高い人口密度を保っていること。3. 同じ建物に住宅ばかりでなく、商店や企業のオフィスなどが同居していること。4. 斜めの建物にし、通行人の目に入る範囲に視界全体を妨げるような建物を許さないこと等が上げられる。4の視点によるまちづくりの結果、バンクーバー市に住む人々に快適な生活の場を与えるばかりでなく、そこを訪れる人々にも人と建物と自然との

調和した景観を見せてくれる良い機会を与えてくれている。

第4節 カナダの医療制度

カナダでは歯科医療を除いた公的医療保険が州政府によって運営されている。日本人移住者が集中しているブリティッシュ・コロンビア州では、保険料の上限が単身者で毎月54ドル（約4千円）、家族で108ドル（8千円）、歯科治療代と薬代以外のあらゆる医療費がまかなわれている。州政府を逼迫する医療費に対し、患者の個人負担を増やすべきとの論議もあるが、現在の医療制度は、多くの国民に支持されている。低額の医療保険、受診時に医療負担が無料である医療制度、自立・尊厳といった行動規範に基づいた先進思考と最新の研究成果に支えられた高齢者医療施策が、老後の安心感を生んでいることは確かである。2002年9月、カナダで2番目の日系カナダ人向け介護付きシニア・ホームが、ブリティッシュ・コロンビア州政府の援助を受けてバンクーバーに設立された。多文化主義のもとで、日系ホームのような特定コミュニティの運営する施設に、国がこうした援助を行うことも、カナダに住む日本人にとって大きな安心感となっている。

第2章 住みやすいまち・**住みやすい地域の条件とは
—佐世保市民へのアンケートから**

長崎県立大学共同研究「QOLから見た地域づくりに関する基礎的研究」の一環として、住みやすい街の条件を抽出するため、別紙の質問用紙（資料1）を用いて調査をおこなった。調査方法およ

「住みやすい都市・住みやすい地域」の要因抽出に関する基礎的研究

び調査実施期間は以下のとおりである。なお、今回の分析考察は紙幅の関係上、質問項目全体への分析考察を網羅したものではなく「まちづくり」の項目に限定した。その他の項目についての分析は別の機会に紹介したい。

(1) 調査実施期間：2003年6月11日(木)、
7月17日(木)の両日。

(2) 調査方法：質問紙調査法
(質問項目数 29項目)

6月11日は佐世保市北地区公民館主催の成人教室の参加者、7月17日は長崎県すこやか長寿大学講座への参加者に対して実施した。調査の目的や質問項目について説明を行い、さらにわかりにくい点などについて質問等を受けた上で本人に記入してもらうという方法をとった。

(3) 回答者数：計101名(男性28名、女性73名)

第1節 調査結果の概要

(1) 一般的属性

調査対象者の一般的属性(性別、年齢構成、職業、同居家族構成、家族の中での続柄)は、度数分布表(資料2)を参照されたい。調査対象者の性別は圧倒的に女性の割合が高く(女性：男性＝約7対3)、調査対象者全体の年齢構成は60代以上に集中している。現在の職業は年齢構成結果に関連して、無職と主婦の割合がほぼ全体を占めている。これまで従事してきた職業では公務員の割合が高い。家族の中で世帯主との回答が半数以上、配偶者という回答は35%近くを示している。同居家族をみると一人暮らしが24.8%、二人という回答が44.6%となっている。そのなかで夫婦世帯の割合は40.6%である。

(2) 出生地(表11)：出生地をみると佐世保市生

まれが37.6%、長崎県内生まれ25.7%で、県内出身者が63.3%を示している。国外生まれという回答は5%であった。これまでの居住地の移動の有無をみると、64.4%にあたる人々が佐世保市以外の場所で生活した経験をもっている。

(3) 佐世保市居住期間(表12)

佐世保市在住期間をみると、40年以上という長期間在住者の割合が高く70.3%を占めている。次に続くのが30～39年の在住者である。在住期間が1～19年という人はわずか4%であるが、これは調査対象者の年齢構成が60代以上に集中していることと関連した結果を示している。

(4) 佐世保市への移住契機(表15)

佐世保市への移住は「仕事」を契機としている割合が高く、有効回答数のなかで40%を占めている。次に「本人」、あるいは「妻の出身地であるから」という項目が続く。また、「退職後の選択として佐世保市を選んだ」という回答は注目されるが、それらの経緯についてできればもう一步踏み込んだ聞き取りが必要であったと考える。

(5) 佐世保市のイメージ(表16)

市民が抱く佐世保市のイメージは、上位から「美しい自然環境に恵まれた街」、「新鮮な魚介類の街」、「基地の街」、「造船の街」という順序であった。風光明媚な九十九島を筆頭に、穏やかな海と緑の山に囲まれた美しい景観や、恵まれた海の幸への認識、愛着が感じられる。

(6) 佐世保市でよくなってほしいところ

(表17改善点)

市民が佐世保市でよくなってほしいと期待する点は、上位から順に「医療サービス」、「市民意識・マナー」、「文化施設」、「交通の便」という結果を示している。

(7) 生活で大切にしていること

日常の生活で大切にしていることは、上位から順に「健康づくり」、「友人関係」、「家族関係」、「近所づきあい」という結果を示している。個人に関わる項目である健康づくり以外は、すべて他者との人間関係であり、人間関係が生活のなかでいかに重要な位置を占めているかが窺われる。

(8) 佐世保への愛着 (表20)

佐世保市への愛着心は全体的に高い傾向を示している。「強い」52%という回答と「少し」37%とを合わせると89%に達し、愛郷心の強いことが窺われる。回答者の世代的背景とも関連しあうが、「強い」が半数以上というものは中規模都市における一般化された数値よりも「強い」愛郷心を示している。

(9) 佐世保は終の棲家 (表21)

佐世保市を「終の棲家」として考えている割合は72.3%と高い数値を示している。調査対象者の年齢層が60歳以上に集中していることと関連していると考えられるが、そうであっても、はっきりと「いいえ」という回答は非常に少数(2%)であった。

なお、先祖の墓についての質問項目のなかで、「故郷の墓を整理し佐世保市に移動した」という人々が11.9%存在するが、この墓の移動の段階で佐世保市への定住を決意したものと考えられる。今後の課題としてこうした対象者へ、どのような要因で決意に至ったのか等、この項目についても(4)と同様にもう一步踏み込んだの聞き取り調査が必要とされるだろう。

(10) まちづくりで魅力となるもの (表24)

上位から順に「環境」、「人間関係」、「文化」、「景観」という結果であった。景観も環境のなかに含

めてとらえるならば、まちづくりを支える魅力とは自然によって与えられた「環境」とそこに「住む人々」であり、その人々によって「創りだされる環境」「創り出される文化」ということができるのではないだろうか。

(11) 大切な「住みよい地域」の条件

(表25 治安)

上位から順に「人間関係」、「環境」、「安全(治安)」、「交通」、「医療」、「文化」という結果を示している。大きく分けると「人間」と「環境」(含「文化」・「安全(治安)」・「医療」・「交通」)とに分けることができる。さらに、その中で生活の質(安全・医療・交通等)が強く問われ、とくに「快適性」求められているのではないだろうか。

(12) 健康づくりや環境への関心度

(表26・表28・表29)

健康づくりや環境への関心度をみると、日常生活のなかで大切にしている項目のトップに「健康づくり」が挙げられていることが注目される。まず、現在喫煙している割合は5%と低く、過去喫煙者の割合も10.3%と比較的低い数値を示している。歩き煙草禁止条例の実施については、佐世保市でも実施すべきと考える人が84.2%と高くなっている。これは煙草が健康に及ぼす悪影響等、健康への関心の高さとともに、市民意識やマナーに対する関心の表れと考えることができるだろう。また、ごみ問題や食の安全、水質汚濁など身近な環境問題については関心度が高いが、それに比べて大気汚染や温暖化等の問題になると関心度はやや低くなる傾向を示している。

自然環境が悪化すれば健康にも被害を及ぼすことは明らかである。環境については、住みやすいまちの条件として、さらにはまちづくりの魅力の

「住みやすい都市・住みやすい地域」の要因抽出に関する基礎的研究

大切な項目としても挙げられており、重要な要因のひとつと考えられていることは確かである。

おわりに

バンクーバー市の生活優先第一に掲げた都市開発の理念と、住みやすさ・暮らしやすさについて佐世保市民が求める項目には共通するものがみられる。しかしながら、それぞれの地域社会が現在の段階で何を優先するかは、その社会がおかれた現状、さらに歴史的・文化的基盤や経済的發展段階によって若干の相違がみられる。おかれた状況や直面している問題はそれぞれ異なっている、どのような地域社会を創り上げるか、到達点としてどのような目標を置くのかという理念・ランドデザインとなるものが、どの社会にとっても創り上げる基盤として欠かせないものであろう。その構想基盤なしには、対処療法的なまちづくりになってしまうのではないだろうか。

住みやすさ・暮らしやすさについて考えるとき、日本からカナダ（バンクーバー市）へ1968年に移住しカナダでの暮らしが35年におよぶT氏からの回答が、1つのヒントをもたらしてくれる。最後にT氏（55歳）のコメントを紹介しておきたい⁽⁶⁾。

なぜ34年間もずっとバンクーバーで生活をするようになったか??

(1) 自然が豊富。山あり、海あり、そして空気がうまいこと。

しかも水道の水が井戸水みたくうまかったこと。最近は少しカルキの匂いがするけどまだまだ日本に比べ臭くない。

(2) 日本人好みの食べ物が手に入ること。

国宝ローズは昔の日本のお米の味と同等。魚も肉も豊富で安いこと。

最近の日本のお米の味は改良に次ぐ改良で国宝ローズとはまるで違うけど……

商社がイクラを買い付ける以前はただ同然の値段でした。

(3) 公共料金が安いこと。電話、電気、水道代など。

(4) 医療費が安いこと。

医療システムがかなり違いますが、健康保険精度が整っていて薬代はもちろん診察料も無料に近い金額。しかも入院費用もびっくりするほど安い。

(5) 公共施設がかなり整っていること。

コミュニティーセンターがいたるところにあり、そこにはプールやジムあります。そして図書館も多い。

いたるところに公園があり、パブリックゴルフコースのグリーンフィーがめっちゃ安いこと。スキーも安かった。

(6) 日本にあってバンクーバーにないもの。

バー、キャバレー類の娯楽施設。もちろんパンチコもない。ネオンサインが好きな人にはむいていないかも知れません。

(7) 一般のサラリーマンは週休二日制で残業がないこと。

週末はのんびりと生活を楽しめること。

日本で家族や友達を呼んでBBQをしますか???

カナダでは会社と私生活は油と水の関係です。

〈追記〉

本研究は長崎県立大学学長裁量分共同研究

ループ「QOL から見た地域づくりに関する基礎的研究」(研究代表者:吉居秀樹)の一環として実施されたものである。最後に、今回の調査にご協力頂いた関係者の方々に感謝申し上げたい。なお、本論文全体の文責は山田が担当し、アンケート調査結果のデータ整理は西村が担当した。

〈注〉

- (1) バンクーバーの人口は200万人近くあり、その面積は約2,800平方キロにおよぶ。バンクーバーとその近郊のことを合わせて「グレーター・バンクーバー」もしくは「ロウアー・メインランド」と呼ぶ。ここでいう近郊とは、必ずしもすぐ隣の街というわけではなく、基本的にバンクーバー市から容易に移動できる距離内にある地域までを指す。現在、一般的にバンクーバーというときは、グレーター・バンクーバーまで指すことが多い。しかし、ここで対象とするバンクーバー市はグレーター・バンクーバーではなく、一行政体としてのバンクーバー市を指している。
- (2) アメリカの Mercer Human Resources Consulting が実施した調査(マーサー社は世界の都市や国に関し様々な分野の調査を行い、収集データ

を企業の経営戦略の参考などとして販売・提供している会社である)。2001年11月に行われ、世界の215都市を対象に政治、社会、健康、教育、住宅などに関する39項目を用いて、生活水準などを評価したものである。2002年の調査ではバンクーバーは第2位。そのときの上位10都市は以下のとおりである。1位、チューリッヒ、2位、バンクーバー・ウィーン、4位、ジュネーブ・シドニー、6位、オークランド、コペンハーゲン、フランクフルト、10位、ベルン・ミュンヘン。

- (3) バンクーバー市における調査の実施および資料収集は、2003年8月6日～9月14日の期間山田が行った。フォルス・クリーク地区の再開発に関する資料では、とくに March 2002 CANADA JAPAN JOURNAL を参照した。
- (4) この地区のほとんどの土地がバンクーバー市の所有となっていた。
- (5) カナダは電力の供給国である。バンクーバー市街地の公共交通であるバス、およびスカイトレイン(モノレール)の動力源は電気を用いているため、バス路線の充実を図りバス利用者の増加は、即大気汚染防止に繋がり、環境への配慮となるのである。
- (6) 2002年10月からのメールでのインタビュー、および2003年8月におこなったバンクーバーでの2回に渡るインタビューに基づいたもの。

資料1

まちづくり・健康づくりに関するアンケート (2003)

長崎県立大学・まちづくり研究グループ
吉居・綾木・山田・西村・宮原

長崎県立大学では、共同研究として「住み良いまちづくり、健康づくり」についての調査を進めております。住みやすい街の条件とは何か等について、下記の質問へのご協力をお願い申し上げます。ぜひ皆様のお考えをお教え下さい。(質問用紙は7枚あります)得られたデータは統計処理を行い個人が特定されないように処理するとともに、目的以外に使用しないことを約束いたします。

あなたやあなたのご家族のことについておたずねします。

次の各項目について、それぞれ該当するものを1つ選んでその番号を○で囲むか、記入をしてください

- (1) あなたの性別は? 1. 男性 2. 女性
- (2) あなたの年齢は?
 1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代
 6. 60歳代 7. 70歳代 8. 80歳代 9. 90歳以上
- (3) あなたの現在のお仕事は? (主なものに◎、副業には○をつけてください)
 1. 農業 2. 漁業 3. 自営業(農業・漁業を除く) 4. 公務員
 5. 専門的・管理的職業(公務員を除く) 6. 事務的職業

「住みやすい都市・住みやすい地域」の要因抽出に関する基礎的研究

7. 技能・労務的職業（運転手，大工，修理工，縫製工，守衛等）
 8. 販売・サービスの職業 9. パート・アルバイト（家族従業者・内職を含む） 10. 自由業
 11. 主婦 12. 無職（年金生活者含む） 13. その他（ ）
- (4) 年金生活者の方はこれまでの主たる職業についてお答え下さい。（主なものに◎，副業には○をつけてください）
 1. 農業 2. 漁業 3. 自営業（農業・漁業を除く） 4. 公務員
 5. 専門的・管理的職業（公務員を除く） 6. 事務的職業
 7. 技能・労務的職業（運転手，大工，修理工，縫製工，守衛等）
 8. 販売・サービスの職業 9. パート・アルバイト（家族従業者・内職を含む） 10. 自由業
 11. 主婦 12. 無職 13. その他（ ）
- (5) あなたは，世帯主ですか？
 1. 世帯主 2. 世帯主の配偶者 3. 世帯主の父親
 4. 世帯主の母親 5. 世帯主の祖父母
 6. 世帯主の子供（嫁・婿を含む）
 7. 世帯主の孫（孫の嫁・婿を含む）
 8. 世帯主の親族
 9. その他（ ）
- (6) 現在同居しているご家族は何人ですか。（ご本人を含みます）
 1. 一人 2. 二人 3. 三人 4. 四人 5. 五人 6. 六人
 7. 七人 8. 八人以上 9. その他（ ）
- (7) 現在同居しているご家族の家族構成はどのようになっていますか。（ご本人を含みます）
 1. 一人暮らし 2. 夫婦のみ 3. 夫婦と未婚の子ども
 4. 夫婦と既婚の子ども（孫がいない）
 5. 夫婦と既婚の子ども（孫がいる）
 6. その他（ ）
- (8) あなたは育った家族のなかで
 1. 長男 2. 次男 3. 三男 4. 四男 5. 五男 6. 六男以上
 7. 長女 8. 次女 9. 三女 10. 四女 11. 五女 12. 六女以上
- (9) あなたは末子ですか。 1. はい 2. いいえ
- (10) あなたを含めて兄弟姉妹は何人ですか。
 1. 一人 2. 二人 3. 三人 4. 四人 5. 五人
 6. 六人 7. 七人 8. 八人 9. 九人 10. 十人以上
- (11) あなたのお生まれは
 1. 佐世保市
 2. それ以外（長崎県内 市町村名： ）
 （長崎県外 県名： ）
- (12) 佐世保市に居住して（ ）年
- (13) 佐世保市以外の居住経験
 1. ある 市町村名：・ _____
 ・ _____
 ・ _____
 2. ない
- (14) 佐世保市の前は
 _____ 都・道・府・県 _____ 市・町・村 在住
- (15) 佐世保市へ移住の契機
 1. 仕事の関係から 2. 退職後の場所として 3. 自分の出身地だから
 4. 妻の出身地だから 5. 子ども関係から 6. 住みたい街だから
 7. その他（ ）
- (16) あなたが抱く佐世保市のイメージは？（いくつでも可）
 1. 美しい自然環境に恵まれた街 2. 新鮮な魚介類の街 3. 豊かな人間関係の街

調査と研究 第35巻

4. 犯罪が少ない街 5. 西端の地方都市 6. 歴史・伝統の街 7. 基地の街
 8. 交通が不便 9. 教育熱心 10. 観光の街 11. 造船の街 12. 商業の街
 13. 「よさこい」の街 14. その他 ()
- (17) 佐世保市でよくなってほしいところは？ (いくつでも可)
 1. 医療施設 2. 医療サービス 3. 文化施設 4. スポーツ施設 5. 交通の便
 6. 市民の意識・マナー 7. その他 ()
- (18) 生活であなたが大切にしていることはなんですか。 (いくつでも可)
 1. 経済的安定 2. 健康づくり 3. 家族関係 4. 友人関係 5. 環境保全
 6. 近所づきあい 7. その他 ()
- (19) 先祖のお墓はどのようになっていますか？
 1. 先祖代々、佐世保市にある
 2. 郷里の墓を整理し佐世保市に移動した
 3. 郷里にある (*郷里にあるとお答えになった方にお聞きします)
 お墓の管理はどのようにされていますか？
 ア. 兄弟・姉妹が管理している イ. 自分で帰郷の度に管理
 ウ. 親族に依頼してある エ. 寺に依頼してある (永代供養など)
 オ. その他 ()
- (20) あなたは佐世保に愛着を感じておられますか。
 1. 強く感じている 2. まあ感じている 3. あまり感じていない
 4. まったく感じていない 5. わからない
- (21) 佐世保はあなたにとって「終の棲家」にしたい土地ですか。
 1. はい 2. いいえ 3. わからない
- (22) 日本国内で自由に移住できるとしたら最も生活したい場所はどこですか。
 1. 場所 () 2. 特にない
- (23) 海外で自由に移住できるとしたら最も生活したい場所はどこですか。
 1. 場所 () 2. 特にない
- (24) まちづくりで魅力と思われるものを3つ挙げてください。
 1. 2. 3.
- (25) あなたにとって大事にしたい「住みよい地域」の条件を3つ挙げてください。
 1. 2. 3.
- (26) 1. あなたはタバコを吸いますか。
 1. 吸っている (年数: 年 1日あたり 本)
 2. 以前吸っていた (年数: 年 1日あたり 本)
 3. 吸わない
- (26) 2. 歩きタバコ禁止条例についてどう思いますか。
 1. 佐世保でも実施すべきである 2. 佐世保では実施しない方がよい 3. 関心がない
 4. 知らない 5. その他 ()
- (27) 1日24時間のうち次の時間はどれくらいありますか。

睡眠時間	時間
座っている時間	時間
立っている時間	時間
歩いている時間	時間
筋肉運動をしている時間	時間
合計	24時間

- (28) 環境保全について関心がありますか。
 1. とてもある 2. ややある 3. ない
- (29) 上記の質問で1 (とてもある), 2 (ややある) と答えた方は特に何について関心がありますか。 (いくつでも可)
 1. 食の安全 2. ごみ 3. 水質汚濁 (環境ホルモンなど)

「住みやすい都市・住みやすい地域」の要因抽出に関する基礎的研究

4. 大気汚染（酸性雨など） 5. 地球温暖化
6. その他（ ）

ご協力有り難うございました。

資料2 度数分布表

表1. 性別

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 男	28	27.7	27.7	27.7
女	73	72.3	72.3	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表2. 年齢

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 30歳代	3	3.0	3.0	3.0
40歳代	3	3.0	3.0	5.9
50歳代	5	5.0	5.0	10.9
60歳代	29	28.7	28.7	39.6
70歳代	40	39.6	39.6	79.2
80歳代	21	20.8	20.8	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表3-1. 職業

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 農業	1	1.0	1.0	1.0
自営業	4	4.0	4.0	5.0
公務員	1	1.0	1.0	6.0
専門・管理	1	1.0	1.0	7.0
事務	1	1.0	1.0	8.0
パート・アルバイト	3	3.0	3.0	11.0
主婦	36	35.6	36.0	47.0
無職	51	50.5	51.0	98.0
その他	2	2.0	2.0	100.0
合計	100	99.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	1	1.0		
合計	101	100.0		

表3-2. 副業

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 販売・サービス	1	1.0	12.5	12.5
主婦	1	1.0	12.5	25.0
無職	6	5.9	75.0	100.0
合計	8	7.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	93	92.1		
合計	101	100.0		

表4-1. 年金職業

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 農業	2	2.0	2.4	2.4
自営業	4	4.0	4.8	7.1
公務員	23	22.8	27.4	34.5
専門・管理	8	7.9	9.5	44.0
事務	7	6.9	8.3	52.4
販売・サービス	8	7.9	9.5	61.9
パート・アルバイト	5	5.0	6.0	67.9
自由業	2	2.0	2.4	70.2
主婦	16	15.8	19.0	89.3
無職	3	3.0	3.6	92.9
その他	6	5.9	7.1	100.0
合計	84	83.2	100.0	
欠損値 システム欠損値	17	16.8		
合計	101	100.0		

表4-2. 年金副業

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 販売・サービス	1	1.0	25.0	25.0
主婦	3	3.0	75.0	100.0
合計	4	4.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	97	96.0		
合計	101	100.0		

調査と研究 第35巻

表5. 世帯主

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 世帯主	53	52.5	53.5	53.5
配偶者	35	34.7	35.4	88.9
父親	1	1.0	1.0	89.9
母親	7	6.9	7.1	97.0
子ども	3	3.0	3.0	100.0
合計	99	98.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	2	2.0		
合計	101	100.0		

表8. 続柄

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 長男	10	9.9	10.0	10.0
次男	6	5.9	6.0	16.0
三男	7	6.9	7.0	23.0
四男	1	1.0	1.0	24.0
五男	4	4.0	4.0	28.0
長女	34	33.7	34.0	62.0
次女	25	24.8	25.0	87.0
三女	8	7.9	8.0	95.0
四女	2	2.0	2.0	97.0
六女以上	3	3.0	3.0	100.0
合計	100	99.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	1	1.0		
合計	101	100.0		

表6. 同居家族

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 一人	25	24.8	25.0	25.0
二人	45	44.6	45.0	70.0
三人	15	14.9	15.0	85.0
四人	4	4.0	4.0	89.0
五人	8	7.9	8.0	97.0
六人	2	2.0	2.0	99.0
八人以上	1	1.0	1.0	100.0
合計	100	99.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	1	1.0		
合計	101	100.0		

表9. 末子

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 Yes	22	21.8	22.9	22.9
No	74	73.3	77.1	100.0
合計	96	95.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	5.0		
合計	101	100.0		

表7. 家族構成

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 一人暮らし	22	21.8	22.9	22.9
夫婦	41	40.6	42.7	65.6
夫婦と未婚の子ども	15	14.9	15.6	81.3
夫婦と既婚の子ども(孫なし)	3	3.0	3.1	84.4
夫婦と既婚の子ども(孫あり)	5	5.0	5.2	89.6
その他	10	9.9	10.4	100.0
合計	96	95.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	5.0		
合計	101	100.0		

表10. 兄弟姉妹の数

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 一人	3	3.0	3.0	3.0
二人	16	15.8	16.2	19.2
三人	12	11.9	12.1	31.3
四人	16	15.8	16.2	47.5
五人	14	13.9	14.1	61.6
六人	11	10.9	11.1	72.7
七人	11	10.9	11.1	83.8
八人以上	9	8.9	9.1	92.9
九人	5	5.0	5.1	98.0
十人以上	2	2.0	2.0	100.0
合計	99	98.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	2	2.0		
合計	101	100.0		

「住みやすい都市・住みやすい地域」の要因抽出に関する基礎的研究

表11. 出生地

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 市内	38	37.6	38.8	38.8
県内	26	25.7	26.5	65.3
国内	29	28.7	29.6	94.9
国外	5	5.0	5.1	100.0
合計	98	97.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	3	3.0		
合計	101	100.0		

表12. 居住期間

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1年以内	1	1.0	1.1	1.1
2~4年	1	1.0	1.1	2.2
10~19年	2	2.0	2.2	4.4
20~29年	6	5.9	6.6	11.0
30~39年	10	9.9	11.0	22.0
40年以上	71	70.3	78.0	100.0
合計	91	90.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	10	9.9		
合計	101	100.0		

表13. 市外の居住経験

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 ある	65	64.4	67.0	67.0
ない	32	31.7	33.0	100.0
合計	97	96.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	4	4.0		
合計	101	100.0		

表14. 前居住地

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 県内	24	23.8	42.9	42.9
九州	21	20.8	37.5	80.4
九州外	11	10.9	19.6	100.0
合計	56	55.4	100.0	
欠損値 システム欠損値	45	44.6		
合計	101	100.0		

表15. 移住の契機

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 仕事	27	26.7	40.3	40.3
退職後選択	2	2.0	3.0	43.3
出身地	11	10.9	16.4	59.7
妻の出身地	2	2.0	3.0	62.7
子どもの関係	1	1.0	1.5	64.2
仕事&出身地	2	2.0	3.0	67.2
その他	22	21.8	32.8	100.0
合計	67	66.3	100.0	
欠損値 システム欠損値	34	33.7		
合計	101	100.0		

表16-1. 佐世保のイメージ「美しい自然環境に恵まれた街」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	74	73.3	73.3	73.3
なし	27	26.7	26.7	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-2. 佐世保のイメージ「新鮮な魚介類の街」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	47	46.5	46.5	46.5
なし	54	53.5	53.5	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-3. 佐世保のイメージ「豊かな人間関係の街」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	18	17.8	17.8	17.8
なし	83	82.2	82.2	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-4. 佐世保のイメージ「犯罪が少ない街」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	11	10.9	10.9	10.9
なし	90	89.1	89.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-5. 佐世保のイメージ「西端の地方都市」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	27	26.7	26.7	26.7
なし	74	73.3	73.3	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-6. 佐世保のイメージ「歴史・伝統の街」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	10	9.9	9.9	9.9
なし	91	90.1	90.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-7. 佐世保のイメージ「基地の街」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	56	55.4	55.4	55.4
なし	45	44.6	44.6	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-8. 佐世保のイメージ「交通が不便」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	16	15.8	15.8	15.8
なし	85	84.2	84.2	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-9. 佐世保のイメージ「教育熱心」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	3	3.0	3.0	3.0
なし	98	97.0	97.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-10. 佐世保のイメージ「観光の街」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	19	18.8	18.8	18.8
なし	82	81.2	81.2	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-11. 佐世保のイメージ「造船の街」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	36	35.6	35.6	35.6
なし	65	64.4	64.4	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-12. 佐世保のイメージ「商業の街」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	6	5.9	5.9	5.9
なし	95	94.1	94.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-13. 佐世保のイメージ「『よさこい』の街」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	13	12.9	12.9	12.9
なし	88	87.1	87.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表16-14. 佐世保のイメージ「その他」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	2	2.0	2.0	2.0
なし	99	98.0	98.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表17-1. 改善点「医療施設」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	22	21.8	21.8	21.8
なし	79	78.2	78.2	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表17-2. 改善点「医療サービス」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	38	37.6	37.6	37.6
なし	63	62.4	62.4	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表17-3. 改善点「文化施設」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	30	29.7	29.7	29.7
なし	71	70.3	70.3	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表17-4. 改善点「スポーツ施設」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	14	13.9	13.9	13.9
なし	87	86.1	86.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表17-5. 改善点「交通の便」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	30	29.7	29.7	29.7
なし	71	70.3	70.3	100.0
合計	101	100.0	100.0	

「住みやすい都市・住みやすい地域」の要因抽出に関する基礎的研究

表17-6. 改善点「市民の意識・マナー」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	40	39.6	39.6	39.6
なし	61	60.4	60.4	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表17-7. 改善点「その他」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	6	5.9	5.9	5.9
なし	95	94.1	94.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表18-1. 生活で大切にしていること「経済的安定」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	41	40.6	40.6	40.6
なし	60	59.4	59.4	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表18-2. 生活で大切にしていること「健康づくり」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	82	81.2	81.2	81.2
なし	19	18.8	18.8	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表18-3. 生活で大切にしていること「家族関係」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	46	45.5	45.5	45.5
なし	55	54.5	54.5	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表18-4. 生活で大切にしていること「友人関係」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	56	55.4	55.4	55.4
なし	45	44.6	44.6	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表18-5. 生活で大切にしていること「環境保全」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	28	27.7	27.7	27.7
なし	73	72.3	72.3	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表18-6. 生活で大切にしていること「近所づきあい」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	43	42.6	42.6	42.6
なし	58	57.4	57.4	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表18-7. 生活で大切にしていること「その他」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	1	1.0	1.0	1.0
なし	100	99.0	99.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表19-1. お墓の場所

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 市内	48	47.5	52.2	52.2
移動	12	11.9	13.0	65.2
郷里	32	31.7	34.8	100.0
合計	92	91.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	9	8.9		
合計	101	100.0		

表19-2. お墓の管理

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 兄弟姉妹	20	19.8	52.6	52.6
自身帰省時	5	5.0	13.2	65.8
親族	7	6.9	18.4	84.2
寺	3	3.0	7.9	92.1
その他	3	3.0	7.9	100.0
合計	38	37.6	100.0	
欠損値 システム欠損値	63	62.4		
合計	101	100.0		

表20. 佐世保への愛着

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 強い	52	51.5	55.3	55.3
少し	37	36.6	39.4	94.7
あまり	4	4.0	4.3	98.9
わからない	1	1.0	1.1	100.0
合計	94	93.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	7	6.9		
合計	101	100.0		

表21. 佐世保は「終の棲家」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 はい	73	72.3	77.7	77.7
いいえ	2	2.0	2.1	79.8
わからない	19	18.8	20.2	100.0
合計	94	93.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	7	6.9		
合計	101	100.0		

表22. 希望する国内移住先

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	20	19.8	21.5	21.5
なし	73	72.3	78.5	100.0
合計	93	92.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	8	7.9		
合計	101	100.0		

表23. 希望する国外移住先

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	31	30.7	35.2	35.2
なし	57	56.4	64.8	100.0
合計	88	87.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	13	12.9		
合計	101	100.0		

表24-1. まちづくりでの魅力「環境」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	23	22.8	22.8	22.8
なし	78	77.2	77.2	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表24-2. まちづくりでの魅力「衛生」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	5	5.0	5.0	5.0
なし	96	95.0	95.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表24-3. まちづくりでの魅力「治安」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	5	5.0	5.0	5.0
なし	96	95.0	95.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表24-3. まちづくりでの魅力「交通」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	7	6.9	6.9	6.9
なし	94	93.1	93.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表24-4. まちづくりでの魅力「文化」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	13	12.9	12.9	12.9
なし	88	87.1	87.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表24-5. まちづくりでの魅力「経済」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	7	6.9	6.9	6.9
なし	94	93.1	93.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表24-6. まちづくりでの魅力「景観」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	13	12.9	12.9	12.9
なし	88	87.1	87.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表24-7. まちづくりでの魅力「活力」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	7	6.9	6.9	6.9
なし	94	93.1	93.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表24-8. まちづくりでの魅力「身体運動」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	4	4.0	4.0	4.0
なし	97	96.0	96.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表24-9. まちづくりでの魅力「医療」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	1	1.0	1.0	1.0
なし	100	99.0	99.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

「住みやすい都市・住みやすい地域」の要因抽出に関する基礎的研究

表24-10. まちづくりでの魅力「基地」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	2	2.0	2.0	2.0
なし	99	98.0	98.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表24-11. まちづくりでの魅力「食」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	2	2.0	2.0	2.0
なし	99	98.0	98.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表24-12. まちづくりでの魅力「人間」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	14	13.9	13.9	13.9
なし	87	86.1	86.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-1. 住みよい地域の条件「衛生」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	9	8.9	8.9	8.9
なし	92	91.1	91.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-2. 住みよい地域の条件「食」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	3	3.0	3.0	3.0
なし	98	97.0	97.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-3. 住みよい地域の条件「教育」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	2	2.0	2.0	2.0
なし	99	98.0	98.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-4. 住みよい地域の条件「医療」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	10	9.9	9.9	9.9
なし	91	90.1	90.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-5. 住みよい地域の条件「子供」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	2	2.0	2.0	2.0
なし	99	98.0	98.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-6. 住みよい地域の条件「関係」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	23	22.8	22.8	22.8
なし	78	77.2	77.2	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-7. 住みよい地域の条件「文化」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	7	6.9	6.9	6.9
なし	94	93.1	93.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-8. 住みよい地域の条件「ボランティア」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	2	2.0	2.0	2.0
なし	99	98.0	98.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-9. 住みよい地域の条件「安全」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	14	13.9	13.9	13.9
なし	87	86.1	86.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-10. 住みよい地域の条件「物価」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	6	5.9	5.9	5.9
なし	95	94.1	94.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-11. 住みよい地域の条件「交通」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	11	10.9	10.9	10.9
なし	90	89.1	89.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-12. 住みよい地域の条件「福祉」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	7	6.9	6.9	6.9
なし	94	93.1	93.1	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-13. 住みよい地域の条件「身体運動」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	1	1.0	1.0	1.0
なし	100	99.0	99.0	100.0
合計	101	100.0	100.0	

表25-14. 住みよい地域の条件「環境」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	20	19.8	20.0	20.0
なし	80	79.2	80.0	100.0
合計	100	99.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	1	1.0		
合計	101	100.0		

表25-1. 煙草

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 吸っている	5	5.0	5.1	5.1
過去喫煙	11	10.9	11.2	16.3
非喫煙	82	81.2	83.7	100.0
合計	98	97.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	3	3.0		
合計	101	100.0		

表26-2. 歩きタバコ禁止条例

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 実施すべき	85	84.2	87.6	87.6
実施しない	4	4.0	4.1	91.8
関心なし	6	5.9	6.2	97.9
その他	2	2.0	2.1	100.0
合計	97	96.0	100.0	
欠損値 システム欠損値	4	4.0		
合計	101	100.0		

表28. 環境保全への関心

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 とてもある	49	48.5	52.7	52.7
ややある	44	43.6	47.3	100.0
合計	93	92.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	8	7.9		
合計	101	100.0		

表29-1. 関心のある環境問題「食の安全」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	63	62.4	69.2	69.2
なし	28	27.7	30.8	100.0
合計	91	90.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	10	9.9		
合計	101	100.0		

表29-2. 関心のある環境問題「ゴミ問題」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	75	74.3	82.4	82.4
なし	16	15.8	17.6	100.0
合計	91	90.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	10	9.9		
合計	101	100.0		

表29-3. 関心のある環境問題「水質汚濁」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	54	53.5	59.3	59.3
なし	37	36.6	40.7	100.0
合計	91	90.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	10	9.9		
合計	101	100.0		

表29-3. 関心のある環境問題「大気汚染」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	36	35.6	39.6	39.6
なし	55	54.5	60.4	100.0
合計	91	90.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	10	9.9		
合計	101	100.0		

「住みやすい都市・住みやすい地域」の要因抽出に関する基礎的研究

表29-4. 関心のある環境問題「温暖化」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あり	50	49.5	54.9	54.9
なし	41	40.6	45.1	100.0
合計	91	90.1	100.0	
欠損値 システム欠損値	10	9.9		
合計	101	100.0		

表29-5. 関心のある環境問題「その他」

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 なし	91	90.1	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	10	9.9		
合計	101	100.0		